

厚生労働科学研究
成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業
(H23-次世代-指定-008)

HTLV-1母子感染予防に関する研究: HTLV-1抗体陽性妊婦からの出生児の コホート研究

研究代表者
昭和大学医学部小児科
板橋 家頭夫

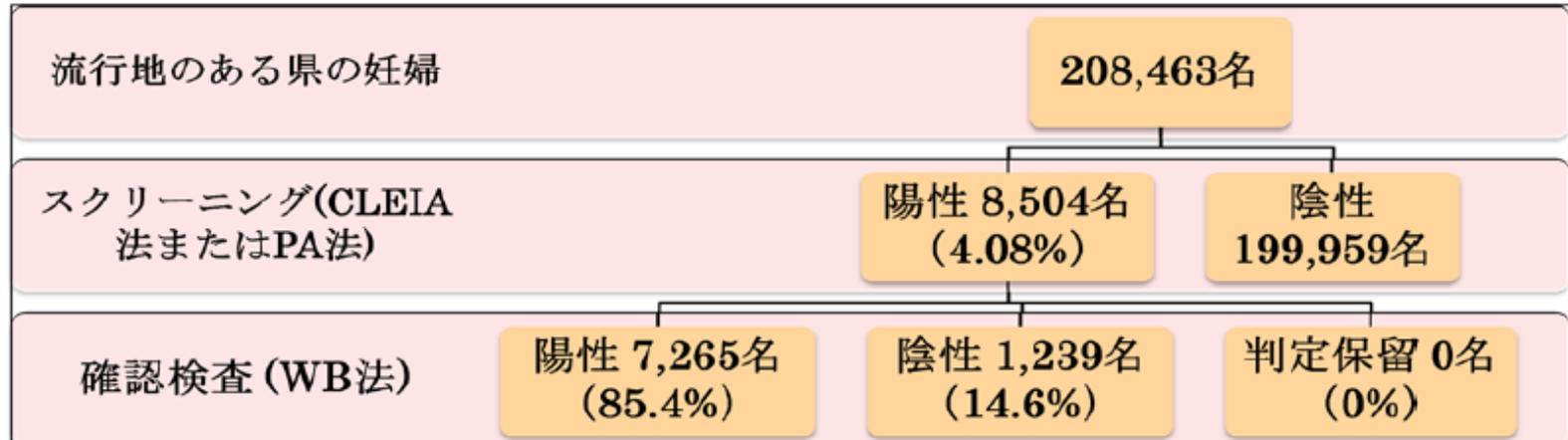
本研究班の目的

乳汁栄養法別母子感染率

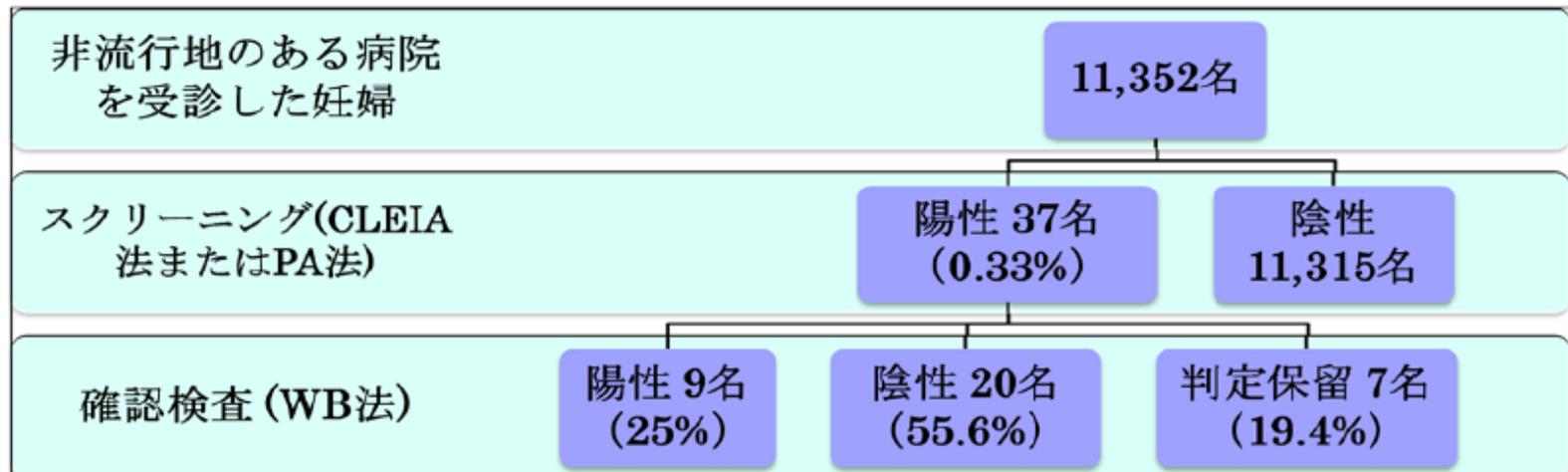
	対象	陽性者	陽性率	
人工栄養	1553	51	3.3%	感染細胞の暴露なし
短期母乳 ($\leq 3\text{Mo}$)	162	3	1.9%	中和抗体の存在 短期の感染細胞暴露
長期母乳 ($\geq 4\text{Mo}$)	525	93	17.7%	中和抗体の減少 長期の感染細胞暴露
冷凍母乳	64	2	3.1%	感染細胞の死滅

検討対象が少ない！

WB法による判定保留率



真の陽性者 3.49% スクリーニング偽陽性者 0.6%



真の陽性者 0.079% スクリーニング偽陽性者 (含、判定保留) 0.2%

母子感染予防対策効果について

☑HTLV-1母子感染予防について明らかになっている点

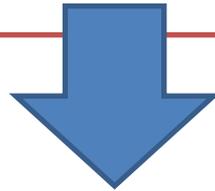
- 母子感染では3歳までにHTLV-1抗体が陽性
- 長期間の母乳栄養での母子感染率は15～20%
- 人工栄養導入で母子感染率は1/5～1/6に低下
- 人工栄養でも3%の児は抗体陽性(母子感染)

☐HTLV-1母子感染予防について明確でない点

- 短期間(生後3カ月以内)の母乳栄養の効果
- 冷凍母乳の効果
- WB法による判定保留症例の感染率
- 信頼性の高いHTLV-1ウイルス感染症の検査方法
- 各栄養法による母親の心理的影響・児の成長や発達、およびアレルギー疾患のリスク等

仮説

- 陽性妊婦から出生した児は、乳児期の栄養法により3歳時点の感染率に有意な差が生じる
- 栄養法が児の予後や母子関係に影響を与える
- 栄養法以外の要因による感染の影響が明らかとなる



母子感染予防と児の健全な育成の視点に立ち、HTLV-1抗体陽性妊婦から出生した児の適切な乳汁栄養法を明らかにするとともに、将来の感染者を確実に減少させる施策の立案を目的とする

研究方法

研究方法の概略

妊婦健診実施施設: 妊婦に対するHTLV-1抗体スクリーニング検査陽性者

WB法による確認検査・結果説明

研究協力施設
(総合周産期母子医療センター
あるいはそれに準ずる施設)

妊婦の了解を得ずして夫や近親者に情報を
伝えてはならない!

HTLV-1抗体陽性・判定保留者に対するカウンセリング

コホート研究についての説明と同意

(判定保留者⇒PCR法)

妊婦が自ら選択

母乳栄養

短期母乳栄養

冷凍母乳栄養

人工栄養

出生した児のフォローアップ(出生後1, 3ヵ月、6ヵ月、以後6ヵ月ごと3歳まで)
3歳時点でHTLV-1抗体検査

スクリーニング検査陽性者への対応(1)

妊婦健診実施施設:妊婦に対するHTLV-1抗体スクリーニング検査陽性者

(注)偽陽性率が高いため感染者と断定しないこと! 確認検査について説明を行う。

WB法による確認検査(原則として健診施設で行うが、協力施設に依頼も可)

WB法による確認検査で陽性

(注)妊婦に対し、可能な限り夫に“陽性”あるいは“判定保留”という結果を説明することについて同意を得ることが望ましい。妊婦の了解を得ずしてこれらの情報を伝えてはならない!

WB法による確認検査で判定保留

PCR法による検査の説明・同意

同意者には研究費負担で実施(SRL依頼)

(注)同意が得られない場合、希望者は自費検査

PCR法陽性

PCR法陰性

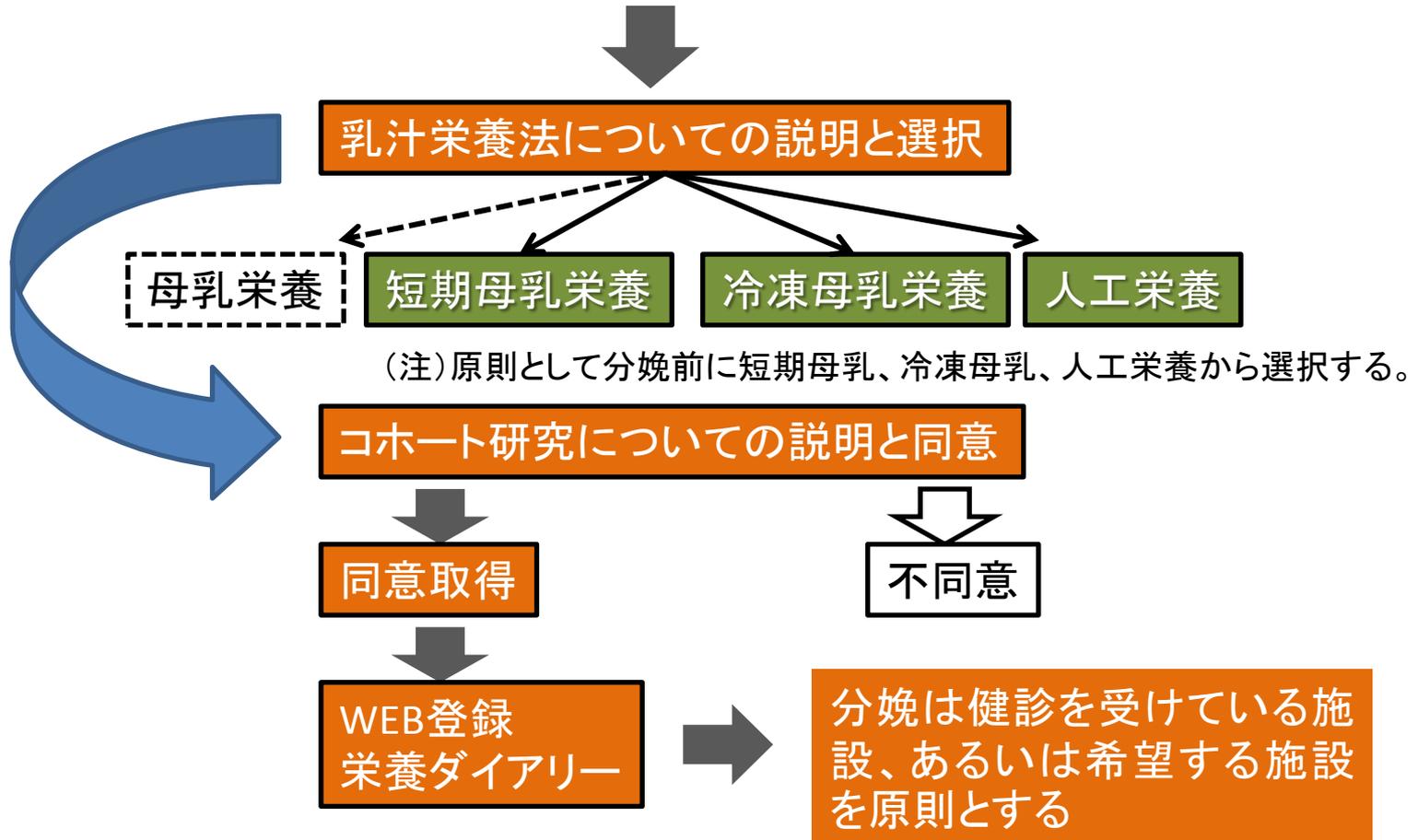
(注)現時点ではPCR法陰性者に母子感染がおこらないという確証は不十分である

陰性:スクリーニング検査陰性者と同様の対応

原則として研究協力施設に依頼し医療相談・カウンセリングを行う

スクリーニング検査陽性者への対応(2)

原則として研究協力施設に依頼し医療相談・カウンセリングを行う



HTLV-1抗体陽性妊婦から出生した児のフォローアップ

母体HTLV-1キャリア(判定保留も含む)から出生した児は、地域の中核施設(総合周産期母子医療センターなど)にて1, 3カ月、6カ月、以後6カ月ごとにフォローアップするとともに、必要に応じてカウンセリングも実施。

□分娩施設からの母体情報

- ✓ 妊娠分娩歴
- ✓ 既往歴
- ✓ HTLV-1抗体検査結果および家族への告知の有無

□出生児のフォローアップ情報

- ✓ 家族歴
- ✓ 成長・発達
- ✓ アレルギー疾患の有無
- ✓ その他の疾患・入院歴の有無
- ✓ 乳汁栄養の種類や摂取状況
- ✓ 離乳食の有無や摂取状況
- ✓ 母子関係の評価・エジンバラ産後うつ病評価尺度(1, 3カ月)、ストレステスト(1歳)

□3歳時点のHTLV-1抗体検査結果

ICが得られた段階でWEB登録し、
随時情報を入力

3000例の登録を予定

【注】

一部の施設では対照としてHTLV-1抗体陰性妊婦から出生した児を3歳までフォローする(抗体検査は行わない)

研究実施のための準備状況

- 健診・分娩施設に向けての本研究の周知と協力依頼
 - ✓ 日本産婦人科医会および各自治体のHTLV-1母子感染協議会あるいは周産期医療協議会などを通じて研究の周知
 - ✓ 総合周産期母子医療センターや地域周産期センターおよびこれに準ずる施設への協力依頼(12月28日現在101施設が承諾)
- HTLV-1母子感染予防のための相談者の養成
 - ✓ 産科・小児科医師、助産師・保健師・看護師を対象とした講習会
 - ✓ オン・デマンドビデオ作成
- WEB登録システムの作成
- フォローアップシートの作成
- 本研究班のホームページの作成
- 判定保留者に対するPCR法による確認検査は研究費によって支払われる



HTLV-1 母子感染 予防研究班 ウェブサイト

支えよう。
母と子の未来を。

お問い合わせ先

協力施設 一覧

研究の概要および倫 理委員会申請書類

オンディマンド ビデオ講習会

厚生労働科学研究 伝染病感染症等次世代育成基盤研究 事業 (H26) HTLV-1母子感染予防に関する研究 HTLV-1感染の予防と治療が学際的・学際的・学際的 HTLV-1感染の予防と治療が学際的・学際的・学際的

- HOME
- 研究目的
- お知らせ一覧
- 動画一覧
- 参考リンク
- 協力施設一覧
 - ▶ 北海道
 - ▶ 東北
 - ▶ 関東
 - ▶ 甲信越
 - ▶ 北陸
 - ▶ 中部
 - ▶ 近畿
 - ▶ 中国四国
 - ▶ 九州・沖縄
- Q&A

- ### お知らせ
- ▶ 一覧を見る
- 2011年12月26日 ▶ WEB登録システムについて
 - 2011年12月23日 ▶ HTLV-1抗体陽性妊婦の意思決定支援担当者養成研修のご案内
 - 2011年12月16日 ▶ 研究協力施設ご参加のお願い
 - 2011年11月28日 ▶ HTLV-1 母子感染予防対策講習会開催のお知らせ
 - 2011年11月28日 ▶ HTLV-1 母子感染予防対策研究方法についての解説・留意点

- ### HTLV-1 研究事業班ビデオ講演
- ▶ 動画一覧ページへ(チャプターごとに閲覧できます。)
- | | | | | |
|---|--|---|--|--|
| <p>▶ ビデオ講演
フォローアップの方法とオンライン登録について</p> | <p>▶ ビデオ講演
HTLV-1母子感染に対する長崎県の取り組みとその成果、<…</p> | <p>▶ ビデオ講演
HTLV-1抗体陽性妊婦への意思決定支援</p> | <p>▶ ビデオ講演
HTLV-1母子感染予防に関する研究:HTLV-1抗体陽性妊婦が…</p> | <p>▶ ビデオ講演
栄養方法を選択する際、母親に説明してほしいこと母…</p> |
|---|--|---|--|--|

- ### その他のコンテンツ
- | | | |
|--|--|---|
| <p>▶ Q&A
HTLV-1母子感染に関するQ&Aをまとめました。</p> | <p>▶ 参考リンク
HTLV-1の情報に関する参考リンクです。</p> | <p>▶ 協力施設一覧
本研究班協力予定施設の一覧となります。</p> |
|--|--|---|

▲ページトップへ

厚生労働科学研究 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業

HTLV-1 母子感染予防に関する研究・HTLV-1 抗体陽性妊婦からの出生児のコホート研究

研究代表者 昭和大学医学部小児科学講座 教授 板橋 家頭夫

HTLV-1 母子感染予防対策講習会

1. 本研究の背景と目的、研究計画

昭和大学医学部小児科学講座 教授 板橋 家頭夫

2. HTLV-1 スクリーニングについての実際と注意点—産科的立場から—

富山大学大学院医学薬学研究所産科婦人科学 教授 齋藤 滋

3. HTLV-1 母子感染に対する長崎県の取り組みとその成果、小児科学会の対応

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科感染免疫学講座感染病制御学分野 教授 森内 浩幸

4. 母乳栄養、人工栄養、短期母乳、冷凍母乳の利点と問題点

昭和大学医学部小児科学講座 准教授 水野 克己

5. HTLV-1 抗体陽妊婦への意思決定支援

公益社団法人 日本看護協会常任理事（助産師） 福井 トシ子

6. HTLV-1 抗体陽性妊婦から出生した児のフォローアップの方法およびオンライン登録

東京女子医科大学母子総合医療センター 教授 楠田 聡

東京
会場

砂防会館 利根

2012年2月5日 13:00~17:00

T 102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-5 (印刷) TEL: 03-3261-8386 (代表)

地下鉄【有楽町線・半蔵門線・南北線】永田町駅4番出口 徒歩1分

大阪
会場

大阪国際会議場 特別会議場 2012年2月12日 13:00~17:00

T 530-0005 大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51 TEL: 06-4803-5555

京阪電車中之島線 中之島(大阪国際会議場)駅2番出口 すぐ 近鉄バス 福島駅 徒歩約10分

近鉄バス 新福島駅 2番・3番出口 徒歩約10分 阪神電鉄 福島駅 3番出口 徒歩10分

地下鉄 阿波座駅-中央線 1号出口・千日前線 9号出口 徒歩約10分

お問い合わせ先

昭和大学医学部小児科学講座 板橋 家頭夫 TEL 03-3784-8677

研究組織

【研究代表者】

板橋 家頭夫 (昭和大学医学部小児科)

【研究分担者】

斎藤 滋 (富山大学医学部産科婦人科)

田中 政信 (東邦大学医療センター大森病院産科婦人科・日本産婦人科医会)

池ノ上 克 (宮崎大学医学部産婦人科)

木下 勝之 (日本産婦人科医会)

福井 トシ子 (日本看護協会)

森内 浩幸 (長崎大学医学部小児科)

河野 嘉文 (鹿児島大学医学部小児科)

杉浦 時雄 (名古屋市立大学医学部小児科)

伊藤 裕司 (国立成育医療研究センター一周産期診療部新生児科)

水野 克己 (昭和大学医学部小児科)

田村 正徳 (埼玉医科大学総合医療センター小児科)

楠田 聡 (東京女子医科大学母子総合医療センター新生児部門)

米本 直裕 (国立精神・神経医療研究センター生物統計解析室)